

## 課題対応取組報告書

名称	城東区地域包括支援センター				
提出日	令和 7 年 6 月 14 日				

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/>	地域や専門職とのつながり等	<input type="checkbox"/>	社会資源の創設（居場所づくり等）	
	<input type="checkbox"/>	認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/>	自立支援・介護予防・健康づくり等	
	<input type="checkbox"/>	その他（ ）			
活動テーマ	さまざまな困りごとを抱える高齢者を支えるために、地域と専門職がともに協働していくことができる地域づくり				
地域ケア会議から 見えてきた課題	<p>1【孤立した高齢者の地域課題】 地域から孤立した高齢者は、介入が必要となった際には「支援拒否」など困難事例となり、権利擁護を含めた、多職種による垣根を超えた共有・支援が必要となる。地域住民の理解や協力はもとより、専門職間においても支援に対する意識・温度差があり、所属機関の機能を最大限活かした支援に到達できていない。</p> <p>2【家族介護者に関する地域課題】 介護負担等だけでは解決できない家族が抱える課題は複雑化している。地域全体で孤立した世帯として多様な支援を検討する必要性がある。</p> <p>3【介護予防に関する地域課題】 セルフケアとして介護予防に取り組んでいる高齢者がいる一方で、お世話型の介護を受けたいと介護サービスは利用側の権利意識が強く働く傾向にあり、介護保険法の理念「介護予防・自立支援」を正しく理解できるよう、周知・徹底に取組んでいく必要がある。</p>				
対象	地域住民・民生委員・医療や介護の専門職				
地域特性	<p>【複数地域】古くから地域活動に参加している方は困った時にすぐ支援につながることが多いが、転入してきたような方は、地域で孤立してしまう傾向にあり、支援につながらず、発見が遅れ複雑化してしまうことが多い。</p> <p>【成育地域】南北にひろがっている地域で、南部は区役所に近く、高層マンションができたり活発な地域であるが、北部は古くからの戸建てが多く高齢化がすすみ、交流もすくないので孤立化がすんでいる。</p> <p>【聖賢地域】人口密度が高い地域ではあるが、配偶者と死別し独居になったり、家族のもとへ転居や施設入所などで空き家が目立ち、その結果近隣住民との関係が希薄になり、地域との関わりが減少している高齢者が増えている。</p> <p>【鯰江地域】大型マンションができ若年層が増えて、高齢化率が18.4%と低いが世代間交流の狭間にいる世帯は、自分達からの発信が少なく、把握したときには、8050問題のような複合的な課題を有していることがある。</p>				
活動目標	<p>1) 高齢者が自ら健康づくりや介護予防に取組めるきっかけづくりの推進</p> <p>2) 困りごとのある高齢者を早期に発見し、また、気づきのサインを逃さないために地域住民が我がごとしてとらえ、支えあえる体制づくり</p> <p>3) 地域包括ケアのさらなる推進のため、地域住民に向けて専門職と協働した取組みの実施</p>				
活動内容 (具体的な取組)	<p>1) 高齢者が自ら健康づくりや介護予防に取組めるきっかけづくりの推進</p> <p>①複数地域の食事サービス、鯰江アクションプラン会議、健康麻雀・百歳体操に参加し、地域福祉支援員、地域関係者や地域の高齢者と顔の見える関係づくりを行った。</p> <p>②コロナ禍で閉じこもっている高齢者や健康に不安を抱えている高齢者が公的な機関とつながるきっかけづくりや介護予防・認知症予防の取組みとして、「ゆうゆうはつらつ教室」の開催を年5回行った。また、複数地域では、閉じこもりがちな男性に向けてのイベント（男の体操教室＆測定会）を計2回開催し、地域の専門職と協働して取組んだ。</p> <p>2) 困りごとのある高齢者を早期に発見し、また、気づきのサインを逃さないために地域住民が我がごとしてとらえ、支えあえる体制づくり</p> <p>①地域の高齢者の集いの場（百歳体操・なにわ元気塾）に向け、総合相談窓口の周知をおこなった。地区民生委員児童委員連絡会に参加し地域ケア会議からの課題を共有し、連携協力依頼を行った。</p> <p>②「地域包括支援センターだより」（年3回発行）や法人が発行する広報誌「ゆうゆう」（年2回掲載）を通じて、相談機関の周知や、介護予防の取組み、高齢者虐待防止に関する周知啓発を行った。</p> <p>3) 地域包括ケアのさらなる推進のため、地域住民に向けて専門職と協働した取組みの実施</p> <p>①認知症総合支援事業との連携を行い、認知症をテーマに区民への周知・啓発を目的とした映画会の運営協力、「地域ケアフォーラム（認知症フェスタ）」等のイベント、専門職向けに多職種研修会「地域で支えるMCI・軽度認知症～多職種連携と治療について～」を企画開催した。</p> <p>②区民向け啓発として、「その時がきたら考えられない…わたしの最期・かぞくの最期」というテーマで人生会議セミナーを開催し、人生の最終段階について自分事として考えることを啓発した。また、区民向けに成年後見制度の理解、周知を目的とし、成年後見制度講演会を大阪市成年後見支援センターと共に開催した。</p>				
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<p>①「ゆうゆうはつらつ教室」を地域の会館で行うことで、新たな参加者が増え、食事サービス、百歳体操等の取組の紹介、新規参加につながった。</p> <p>②区内4包括と区役所高齢福祉課で、共通した高齢者課題への取組みとして、専門職には「高齢者虐待防止研修」「カスタマーハラスメント対応研修」を開催し、区内の在宅支援に関わる専門職に対して資質向上の研修を企画開催できた。区民向けには「認知症フェスタ」を開催し、認知症の人の世界を体感するとともに、認知症や介護に関する情報提供の場となった。</p> <p>③「地域ケア会議（まとめ）」で包括と民生委員との連携した支援事例の共有や課題、民生委員のそれぞれの役割や強みを共有し、さらなる連携に向けた協力依頼の機会となった。</p>				
今後の課題	<p>①地域住民に、住み慣れた地域で長くいきいきと暮らしていくために、自助活動の重要性を認識していただく取組みとして介護予防・認知症予防の継続と、地域とのつながりの重要性、困った時に相談できるところを知っておくこと、自分の老いを受入れ前もって準備しておく終活についてなど、自分ごととして考える機会を広めていきたい。また、一人も孤立しない地域づくりの推進のため、さらに地域支援コーディネーターとの協働を図っていきたい。</p> <p>②ケアマネジヤーや相談支援職の離職は続いている状況にある。疲弊、バーンアウトによる離職を防ぐため、「カスタマーハラスメント」や「接遇」についての研修会を開催し、高齢者支援の専門職間のさらなる連携とスキルアップを目指していく。</p>				